

2024年度事業報告

2024年は、大リーグ大谷翔平選手の痛快な大活躍、パリ五輪での同胞の奮闘、日本被団協のノーベル平和賞受賞など、明るい話題もありましたが、能登半島を襲った震災と豪雨災害、長引く物価高、特殊詐欺や闇バイト問題などが私達の心から離れず、全体的に暗い世相でありました。

本会では、2024年度の事業執行に際し、前年度予算に対し収支ともに1億4,800万円(+9.18%)増額の17億円の予算を組み、4月に各種事業をスタートいたしました。

本会の主たる事業である展覧会・競技会事業については、2024年4月6日(土)・7日(日)並びに2025年3月29日(土)・30日(日)に、東京ビッグサイトにおいてJ K Cサクラ・アニュアル・ショーの名称のもと本部展を2回開催した他、全国各地で340回余の各種展覧会、訓練競技会・アジリティー競技会・フライボール競技会・トリミング競技会・ハンドリング競技会を開催いたしました。

展覧会・競技会事業と並ぶ本会事業の根幹である犬籍登録事業においては、2024年度犬籍登録頭数は前年度に対し若干の減少となりましたが、139犬種・302,576頭と、5年続けて30万頭以上の登録がありました。

年度末有効クラブ会員数については、前年度末会員数に比べやや減少が見られたものの、2024年度末で79,116名となっております。

組織指導においては、円滑な組織運営がなされるよう、各組織に対し綿密な指導を重ねました。広報部門においては、ホームページのリニューアル作業や会報誌の内容充実にも努めるとともに、本会マスコットキャラクター「ジャック」によるブログの頻繁な更新など、会員だけでなく一般愛犬家へのアピールも精力的に行いました。

国際的連携の部門においては、諸外国との緊密な関係の維持に着実かつ堅実な成果を上げることができました。学術部門においては、審査員の技術向上や育成に努めるとともに、グレート・デーン、ジャーマン・スピッツ、バセット・ハウンドの犬種標準改正作業、新登録犬種であるダッチ・シャペンドース、フィニッシュ・ラポニアン・ハーダーの犬種標準作成作業を行いました。

本会公認資格であるJ K C愛犬飼育管理士資格につきましては、ウェブサイトからの申込みも可能とし、前年度に引き続き資格取得のための講習会・試験に数多くのお申し込みをいただき、全国8会場で13回実施した講習会・試験に1,697名の方が参加されました。その結果、トリマー養成機関を含め、2,044名の資格登録者がありました。

なお、喫緊の課題とされている、展覧会・競技会出陳受付や各種登録申請受付のデジタル化については、事務局内にプロジェクト委員会を設け、検討を重ねました。

また、本会が犬を通しての社会貢献として1990年度より取り組んでいる災害救助犬育成については、有事に備え、現在134頭の出動可能な認定犬を確保しております。

前述のような各種事業を推進した結果、2024年度の正味財産増減計算書において、経常収益と経常外収益の合計額は、前年度16億4,428万円に対して1.8%(3,007万円)増の16億7,435万円となりました。

また、経常費用と経常外費用の合計額は、前年度15億8,223万円に対して7.5%(1億1,871万円)増の17億95万円となりました。これにより、当期一般正味財産増減額(当期剰余金)は△3,056万円(前年対比7,587万円減)となっております。

以上のような決算報告であります。本会を取り巻く諸環境が厳しいことに変わりはありません。今後ともこうした財政状態や本会をめぐる情勢等を踏まえた適切な運営を引き続き継続していくことが重要と考えております。

次に、2024年度に実施した事業の概要を事業ごとに報告いたします。

1. 組織に関する事項

2024年度は、組織運営の活性化及び円滑化を図るため、各組織に対し、諸会議の開催及びその議事録の提出、また、展覧会・競技会の開催について指導しました。

組織構成の現況は、次の通りとなっています。

名 称	組 織 数
ブロック協議会	14 (14)
ブロック審査員協議会	13 (13)
ブロック訓練士協議会	14 (14)
クラブ連合会	65 (65)
クラブ地区連合会	1 (1)
ジャーマンシェパードドッグクラブ・ トレーナーズクラブ連合会	1 (1)
ブロックスチュワード委員会	14 (14)
ブロックトリマー委員会	14 (14)
ブロックハンドラー委員会	14 (14)
犬種部会	4 (4)
クラブ	839 (872)

注：() 内は前年度末の数値。

中央委員会の名称
中央賞罰委員会
中央犬籍・繁殖委員会
遺伝性疾患専門小委員会
中央犬種標準委員会
中央展覧会委員会
中央審査員選考委員会
中央ハンドリング委員会 ジュニアハンドラー小委員会
中央トリミング委員会
中央トリマー養成機関委員会
中央訓練委員会 ユーティリティードッグ小委員会 フライボール小委員会 オビディエンス小委員会 ドッグダンス小委員会
中央アジリティー委員会
中央災害救助犬委員会

(1) クラブ活動・機能の強化

2024年度は、6クラブが新しく設立され、クラブ会員数の減少等に起因するクラブの統廃合(合併24、解散15)の結果、年度末のクラブ数は前年度末に比べ33クラブ減少し839クラブとなりました。

なお、年度末の会員定数以上の正会員クラブ数は766クラブと前年度比で10クラブ増加となっており、会員定数未満のクラブに対し、事務局、ブロック担当理事及び管轄組織より指導を行いその正常化に努めました。

2008年度に創設した準クラブ制度については、これまで35クラブが設立されており、全てが正クラブへ移行しております。

(2) クラブへの新入会並びに名義変更の促進

インターネットを活用し、ホームページでの入会案内及び名義変更のPRを行い、新入会・名義変更の促進に努めました。

さらに、新入会・名義変更促進のため、リーフレットを作成し、クラブ、登録畜犬業者等へ配布しました。

(3) クラブ連合会、ジャーマンシェパードドッグクラブ・トレーナーズクラブ連合会活動の指導強化

連合会活動の活性化と指導強化を図るため、諸会議の開催、その議事録の提出期限の徹底及び義務付展覧会・義務付競技会の開催を指導しました。

(4) 各種ブロック協議会活動の指導強化

連合会と同様に、活性化と指導強化を図るため、諸会議の開催及びその議事録の提出期限の徹底を指導しました。

また、FCIインターナショナルドッグショー、ブロック訓練競技会の開催を指導しました。

(5) 犬種部会活動の指導強化

連合会と同様に、活性化と指導強化を図るため、諸会議の開催、その議事録の提出期限の徹底及び部会会報の発行、部会展覧会の開催を指導しました。

また、2024年度は、4部会(①ダックスフンド部会 ②プードル部会 ③シェットランドシープドッグ部会 ④チワワ部会)が活動しております。

(6) 各種ブロック委員会活動の指導強化

連合会と同様に、活性化と指導強化を図るため、常任委員会の開催及びその議事録の提出期限の徹底を指導しました。

(7) 会費自動引落の推進及びシステムの修正

2011年4月より開始した会費の支払いが自動引落しにより可能となるサービスについては、2025年3月末現在、32,548名のクラブ会員にご利用いただいております。

また、会費自動引落システムの構築及び修正を行うとともに、サービス推進のため、会報・ホームページへの公示、引落しをご利用いただいていないクラブ会員に対し、会報への案内書の同封、新規クラブ入会者に対し、クラブ会員証を送付の際に案内書の同封、トリマー養成機関在校生に対し、案内書の送付、引落申込会員に対し、引落月のご案内の送付を実施しました。

クラブ分類表

<クラブ数・正会員クラブ> (総数に対する構成比率)

2025年3月31日現在

	クラブ数		正会員クラブ	
	2024年	2025年	2024年	2025年
全犬種クラブ	597 (68.5%)	577 (68.8%)	596	571
犬種群クラブ	32 (3.7%)	28 (3.3%)	32	28
単犬種クラブ	162 (18.6%)	152 (18.1%)	162	151
トレーナーズクラブ	46 (5.3%)	45 (5.4%)	46	45
アジリティークラブ	33 (3.8%)	34 (4.1%)	33	34
フィールド・トライアル クラブ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0	0
ドッグダンスクラブ	2 (0.2%)	3 (0.4%)	2	3
総 数	872 (100%)	839 (100%)	871 (99.9%)	832 (99.2%)

<凍結クラブ数>

	会員数定数未満 (50名未満)		会員数定数未満 (40名未満)		連合会年会費未納	
	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年
全犬種クラブ	1	6			0	0
犬種群クラブ			0	0	0	0
単犬種クラブ			0	1	0	0
トレーナーズクラブ			0	0	0	0
アジリティークラブ			0	0	0	0
フィールド・ トライアルクラブ			0	0	0	0
ドッグダンスクラブ			0	0	0	0
総 数	1	6	0	1	0	0

(8) クラブ会員数

年度末クラブ会員数は対前年度比98.6%の79,116名であり、前年度末に比べ1,083名の減少となりました。また、1クラブ当たり平均在籍クラブ会員数は92名(前年度89名)となっています。

クラブ会員数の推移

年 度	クラブ会員数	クラブ会員数のうち 翌年同月に残る数	比率
2020年度末	76,585名	59,253名	77.4%
2021年度末	79,308名	62,305名	78.6%
2022年度末	80,757名	64,040名	79.3%
2023年度末	80,199名	63,945名	79.7%
2024年度末	79,116名	63,862名	80.7%

注：名誉会員は除く

会費自動引落サービス並びに会費前納制度利用により、翌年同月に残るクラブ会員数は63,862名(前年度63,945名)で、前年度末に比べ83名が減少し、クラブ会員総数に対する比率は80.7%(前年度79.7%)となりました。

(※自動引落しサービスは2011年1月より受付開始)

継続会費の自動引落サービス利用者数

年 度	利用者数
2020年度末	29,155名
2021年度末	30,455名
2022年度末	31,232名
2023年度末	31,873名
2024年度末	32,548名

クラブ会員数・クラブ数 対前年比較表

(単位：人、クラブ数)

連 合 会 名	2024年3月末		2025年3月末		増 減	
	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数
北 海 道 東	651	9	430	6	-221	-3
北 海 道 西	1,637	15	1,638	14	1	-1
北 海 道 南	821	12	965	12	144	0
小 計	3,109	36	3,033	32	-76	-4
青 森 県	369	5	360	5	-9	0
岩 手 県	408	6	396	6	-12	0
宮 城 県	1,523	16	1,439	15	-84	-1
秋 田 県	359	6	364	6	5	0
山 形 県	326	6	365	6	39	0
福 島 県	691	10	667	8	-24	-2
小 計	3,676	49	3,591	46	-85	-3
栃 木 県	1,699	17	1,633	16	-66	-1
群 馬 県	2,244	30	2,175	30	-69	0
茨 城 県	2,044	24	2,021	23	-23	-1
小 計	5,987	71	5,829	69	-158	-2
千 葉 東	2,193	26	2,191	26	-2	0
千 葉 西	1,128	13	1,086	13	-42	0
千 葉 北	1,711	16	1,748	15	37	-1
小 計	5,032	55	5,025	54	-7	-1
埼 玉 東	1,114	13	1,073	13	-41	0
埼 玉 西	1,655	18	1,621	15	-34	-3
埼 玉 北	1,286	15	1,303	15	17	0
小 計	4,055	46	3,997	43	-58	-3
東 京 東	2,559	20	2,452	19	-107	-1
東 京 西	1,247	12	1,207	12	-40	0
東 京 南	2,360	24	2,415	24	55	0
東 京 北	1,612	19	1,649	16	37	-3
東 京 都 下	1,601	23	1,763	24	162	1
小 計	9,379	98	9,486	95	107	-3

クラブ会員数・クラブ数 対前年比較表

(単位：人、クラブ数)

連 合 会 名	2024年 3 月末		2025年 3 月末		増 減	
	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数
横 浜	1,117	12	1,185	13	68	1
川 崎	687	12	395	7	-292	-5
神 奈 川 北	1,407	12	1,285	12	-122	0
神 奈 川 湘 南	730	14	746	13	16	-1
神 奈 川 南	2,197	13	2,126	13	-71	0
小 計	6,138	63	5,737	58	-401	-5
山 梨 県	519	6	507	6	-12	0
長 野 県	719	10	700	9	-19	-1
新 潟 県	648	9	640	9	-8	0
富 山 県	160	2	163	2	3	0
石 川 県	866	7	860	6	-6	-1
小 計	2,912	34	2,870	32	-42	-2
静 岡 東	1,055	18	1,084	17	29	-1
静 岡 西	1,106	13	1,096	13	-10	0
愛 知 県	2,772	29	2,608	26	-164	-3
岐 阜 県	1,085	14	1,084	14	-1	0
三 重 県	736	12	774	13	38	1
小 計	6,754	86	6,646	83	-108	-3
福 井 県	290	6	277	6	-13	0
和 歌 山 県	313	5	299	4	-14	-1
奈 良 県	483	7	465	6	-18	-1
滋 賀 県	581	10	596	9	15	-1
京 都 府	1,463	19	1,458	18	-5	-1
兵 庫 県	3,169	32	2,939	32	-230	0
小 計	6,299	79	6,034	75	-265	-4
大 阪 東	1,325	18	1,319	17	-6	-1
大 阪 西	4,236	16	4,204	15	-32	-1
大 阪 南	996	14	1,058	14	62	0
大 阪 北	870	13	861	13	-9	0
小 計	7,427	61	7,442	59	15	-2

クラブ会員数・クラブ数 対前年比較表

(単位：人、クラブ数)

連 合 会 名	2024年3月末		2025年3月末		増 減	
	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数
岡 山 県	2,399	20	2,398	20	-1	0
広 島 県	1,631	13	1,623	13	-8	0
山 口 県	723	12	699	11	-24	-1
島 根 県	262	5	267	5	5	0
鳥 取 県	398	5	389	5	-9	0
小 計	5,413	55	5,376	54	-37	-1
香 川 県	1,322	13	1,271	13	-51	0
愛 媛 県	834	10	842	10	8	0
徳 島 県	814	13	774	13	-40	0
高 知 県	354	7	328	6	-26	-1
小 計	3,324	43	3,215	42	-109	-1
福 岡 県	3,365	26	3,413	27	48	1
北 九 州	995	17	1,018	17	23	0
佐 賀 県	428	6	439	6	11	0
長 崎 県	458	7	440	7	-18	0
熊 本 県	1,172	11	1,132	11	-40	0
大 分 県	566	9	584	8	18	-1
宮 崎 県	706	10	757	11	51	1
鹿 児 島 県	304	5	322	5	18	0
沖 縄 県	544	5	507	5	-37	0
小 計	8,538	96	8,612	97	74	1
トリマー養成機関	2,156		2,223		67	
小 計	2,156		2,223		67	
総 合 計	80,199	872	79,116	839	-1,083	-33

全国ブロック協議会別クラブ会員数・クラブ平均会員数推移表

2024年3月末						2025年3月末				
ブロック名	連合会数	クラブ数	有効クラブ 会員数(人)	平均 (人)	順位	ブロック名	連合会数	クラブ数	有効クラブ 会員数(人)	平均 (人)
東 京	5	98	9,379	96	1	東 京	5	95	9,486	100
九 州	9	96	8,538	89	2	九 州	9	97	8,612	89
大 阪	4	61	7,427	122	3	大 阪	4	59	7,442	126
中 部	5	86	6,754	79	4	中 部	5	83	6,646	80
近 畿	6	79	6,299	80	5	近 畿	6	75	6,034	80
神奈川	5	63	6,138	97	6	北関東	3	69	5,829	84
北関東	3	71	5,987	84	7	神奈川	5	58	5,737	99
中 国	5	55	5,413	98	8	中 国	5	54	5,376	100
千 葉	3	55	5,032	91	9	千 葉	3	54	5,025	93
埼 玉	3	46	4,055	88	10	埼 玉	3	43	3,997	93
東 北	6	49	3,676	75	11	東 北	6	46	3,591	78
四 国	4	43	3,324	77	12	四 国	4	42	3,215	77
北海道	3	36	3,109	86	13	北海道	3	32	3,033	95
北陸甲信越	5	34	2,912	86	14	北陸甲信越	5	32	2,870	90
合 計	66	872	78,043	89		合 計	66	839	76,893	92

本部関係	—	—	2,156	—	—	本部関係	—	—	2,223	—
------	---	---	-------	---	---	------	---	---	-------	---

2. 犬籍登録に関する事項

2024年度の犬籍登録頭数は、前年度比97.7%の302,576頭(139犬種)で、前年度末に比べ7,065頭の減少となりました。

犬籍登録頭数推移

年 度	犬籍登録頭数
2020年度	313,120頭
2021年度	319,479頭
2022年度	308,406頭
2023年度	309,641頭
2024年度	302,576頭

犬種別の登録順位は、1位から5位までが前年度と同順位であり、16年連続の1位はプードルで登録数は74,447頭(4,638頭減)となっております。以下、2位はチワワで46,560頭(2,003頭減)、3位はダックスフンドで29,444頭(578頭増)、4位はポメラニアンで21,686頭(530頭増)、5位はミニチュア・シュナウザーで15,141頭(726頭増)となっております。

(1) 犬籍登録管理の徹底と血統証明書の発行

① マイクロチップ登録を推進

マイクロチップによる個体識別登録強化を推進しました。

② U S Bフラッシュメモリ及び製本方式によるスタッドブックの刊行

2023年の全登録犬を収録したU S Bフラッシュメモリ版と、犬種を指定して購入できる製本方式のスタッドブックを刊行しました。

③ 次の登録犬に対してDNA登録等を義務付けております。

・チャンピオン登録犬 ・外産登録犬 ・交配したすべての種牡 ・血統証明書再発行(本会の原簿上に交配記録がある種牡) ・親犬訂正する犬 ・生後2年を超える一胎子についての父母犬及び子犬全頭 ・国外凍結・低温精液による人工授精の母犬及び子犬全頭 ・国内凍結・低温精液による人工授精の父母犬及び子犬全頭

また、前記以外の任意の登録も実施しました。

2024年度のDNA登録は9,401頭であり、本会のDNA登録のデータベースは総数269,902頭となりました。

④ 凍結・低温精液による人工授精と、持込腹(国外で交配した母犬を輸入し国内で出産する場合)の一胎子登録制度を推進しました。

(2) 優良犬作出に対する繁殖奨励の実施

① 優良犬繁殖奨励のため、2002年から2024年までの23年間のデータを基に、第19回J K Cブリーディング・アワードを実施し、ブリーディング・アワード殿堂入り0名、アウトスタンディング・ブリーダー(優良犬作出ブリーダー)25名、アウトスタンディング・サイヤー(優良犬作出種牡)6頭、アウトスタンディング・ダム(優良犬作出台牝)9頭を表彰しました。

② 股関節形成不全症(HD)、および肘関節異形成症(ED)を減少させるため、所有者の希望に基づき特定非営利活動法人日本動物遺伝病ネットワーク(J A H D)評価結果の血統証明書記載を推進しました。

犬種別犬籍登録頭数 2023年度対2024年度（4月～3月）

順位 2023年	2024年	犬種	2023年	2024年	増減数	対比率(%)
1	1	ブードル(スタンダード・2,739・ミニチュア231・トイ1,155)	79,085	74,447	- 4,638	94.1
2	2	チワワ	48,563	46,560	- 2,003	95.9
3	3	ダックスフンド(スタンダード・123・ミニチュア22,443・カニンヘン6,878)	28,866	29,444	+ 578	102.0
4	4	ポメラニアン	21,156	21,686	+ 530	102.5
5	5	ミニチュア・シュナウザー	14,415	15,141	+ 726	105.0
7	6	マルチーズ	9,993	10,182	+ 189	101.9
6	7	フレンチ・ブルドッグ	11,054	9,594	- 1,460	86.8
8	8	ヨークシャー・テリア	8,246	8,069	- 177	97.9
9	9	シー・ズー	8,201	7,774	- 427	94.8
11	10	ビション・フリーゼ	5,999	7,269	+ 1,270	121.2
10	11	ゴールデン・レトリバー	7,775	7,103	- 672	91.4
13	12	パグ	5,282	5,006	- 276	94.8
14	13	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	4,434	4,358	- 76	98.3
12	14	柴	5,773	4,336	- 1,437	75.1
17	15	ボーダー・コリー	3,497	3,964	+ 467	113.4
19	16	ペキニーズ	3,315	3,799	+ 484	114.6
15	17	ラブラドル・レトリバー	4,138	3,571	- 567	86.3
16	18	パピヨン	3,798	3,499	- 299	92.1
18	19	ジャック・ラッセル・テリア	3,369	3,278	- 91	97.3
20	20	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	2,987	3,213	+ 226	107.6
21	21	イタリアン・グレイハウンド	2,981	3,042	+ 61	102.0
22	22	ミニチュア・ピンシャー	2,749	2,944	+ 195	107.1
25	23	シベリアン・ハスキー	2,126	2,521	+ 395	118.6
23	24	シェットランド・シープドッグ	2,650	2,417	- 233	91.2
24	25	ボストン・テリア	2,568	2,258	- 310	87.9
27	26	アメリカン・コッカー・スパニエル	2,045	2,224	+ 179	108.8
26	27	ビーグル	2,096	1,895	- 201	90.4
28	28	日本スピッツ	1,287	1,392	+ 105	108.2
29	29	バーニーズ・マウンテン・ドッグ	1,167	1,261	+ 94	108.1
30	30	ブルドッグ	1,112	1,054	- 58	94.8
33	31	サモエド	397	553	+ 156	139.3
32	32	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	409	450	+ 41	110.0
31	33	ウィペット	446	395	- 51	88.6
35	33	ドーベルマン	389	395	+ 6	101.5
36	35	ジャーマン・シェパード・ドッグ	373	351	- 22	94.1
37	36	イングリッシュ・コッカー・スパニエル	335	334	- 1	99.7
34	37	グレート・ピレニーズ	394	326	- 68	82.7
41	38	狆	275	299	+ 24	108.7
40	39	ボルゾイ	287	278	- 9	96.9
43	40	ワイマラナー	184	270	+ 86	146.7
38	41	フラットコーテッド・レトリバー	324	265	- 59	81.8
39	42	秋田	317	233	- 84	73.5
49	43	オールド・イングリッシュ・シープドッグ	152	228	+ 76	150.0
48	44	ニューファンドランド	158	204	+ 46	129.1
47	45	チャウ・チャウ	165	198	+ 33	120.0
52	46	ホワイト・スイス・シェパード・ドッグ	146	186	+ 40	127.4
54	47	オーストラリアン・シェパード	140	182	+ 42	130.0
42	48	ダルメシアン	235	181	- 54	77.0
44	49	ロットワイラー	172	178	+ 6	103.5
53	50	コーイケルホンディエ	144	174	+ 30	120.8
45	51	ノーフォーク・テリア	170	172	+ 2	101.2

順位 2023年	2024年	犬種	2023年	2024年	増減数	対比率(%)
76	52	アラスカン・マラミュート	49	152	+ 103	310.2
56	53	セント・バーナード	137	148	+ 11	108.0
61	53	スコティッシュ・テリア	107	148	+ 41	138.3
50	55	ミニチュア・ブル・テリア	151	145	- 6	96.0
46	56	ボロニーズ	166	132	- 34	79.5
54	57	グレート・デーン	140	129	- 11	92.1
66	58	バセット・ハウンド	81	128	+ 47	158.0
90	59	ミニチュア・アメリカン・シェパード	22	126	+ 104	572.7
60	60	トイ・マンチエスター・テリア	120	125	+ 5	104.2
69	61	ボクサー	67	121	+ 54	180.6
59	62	ラフ・コリー	127	120	- 7	94.5
57	63	ワイアー・フォックス・テリア	130	119	- 11	91.5
57	64	ブリュッセル・グリフォン	130	103	- 27	79.2
64	65	アフガン・ハウンド	94	96	+ 2	102.1
51	66	チャイニーズ・クレステッド・ドッグ	149	92	- 57	61.7
68	67	ケアーン・テリア	72	82	+ 10	113.9
62	68	ハバニーズ	102	81	- 21	79.4
84	69	バセンジー	33	79	+ 46	239.4
62	70	アイリッシュ・セター	102	72	- 30	70.6
80	71	日本テリア	40	67	+ 27	167.5
65	72	サルーキ	92	60	- 32	65.2
71	73	スキッパーキ	62	59	- 3	95.2
72	74	プチ・ブラバンソン	60	58	- 2	96.7
98	74	ロマーニャ・ウォーター・ドッグ	15	58	+ 43	386.7
72	76	ウェルシュ・テリア	60	53	- 7	88.3
89	77	ポーチュギーズ・ウォーター・ドッグ	25	46	+ 21	184.0
67	78	甲斐	79	45	- 34	57.0
70	78	エアデール・テリア	66	45	- 21	68.2
74	80	ノーリッチ・テリア	57	43	- 14	75.4
91	81	スタッフオードシャー・ブル・テリア	21	42	+ 21	200.0
82	82	ベルジアン・シェパード・ドッグ・マリノア	34	37	+ 3	108.8
77	83	ベルジアン・グリフォン	46	36	- 10	78.3
103	84	レークランド・テリア	12	34	+ 22	283.3
86	85	ジャイアント・シュナウザー	31	33	+ 2	106.5
74	86	ウェルシュ・コーギー・カーディガン	57	32	- 25	56.1
79	87	四国	42	31	- 11	73.8
81	88	イングリッシュ・スプリングー・スパニエル	36	29	- 7	80.6
87	89	ブリタニー・スパニエル	29	28	- 1	96.6
91	90	北海道	21	26	+ 5	123.8
84	91	シャー・ペイ	33	23	- 10	69.7
98	92	キースホンド	15	18	+ 3	120.0
112	92	ベドリントン・テリア	7	18	+ 11	257.1
106	94	チェコスロバキアン・ウルフドッグ	9	17	+ 8	188.9
78	95	レオンベルガー	43	15	- 28	34.9
88	95	ジャーマン・ピンシャー	28	15	- 13	53.6
95	97	オーストラリアン・キャトルドッグ	18	14	- 4	77.8
116	97	ナポリタン・マスティフ	6	14	+ 8	233.3
121	97	ベルジアン・シェパード・ドッグ・グローネンダール	4	14	+ 10	350.0
91	100	チベタン・スパニエル	21	13	- 8	61.9
96	100	プチ・バセット・グリフォン・バンデーン	17	13	- 4	76.5
100	100	シーリハム・テリア	13	13	± 0	100.0
100	100	ベルジアン・シェパード・ドッグ・タービュレン	13	13	± 0	100.0
121	100	ノヴァ・スコシア・ダック・トーリング・レトリバー	4	13	+ 9	325.0

順位 2023年	2024年	犬種	2023年	2024年	増減数	対比率(%)
94	105	ビアデッド・コリー	19	12	- 7	63.2
109	106	ラサ・アプソ	8	11	+ 3	137.5
127	107	アーフェンピンシャー	1	10	+ 9	1,000.0
-	108	ブラシュスキー・クリサジーク	0	8	+ 8	-
109	109	チベタン・テリア	8	7	- 1	87.5
124	109	アイリッシュ・ウルフハウンド	3	7	+ 4	233.3
126	109	ブービエ・デ・フランダース	2	7	+ 5	350.0
-	109	ジャーマン・ハンティング・テリア	0	7	+ 7	-
-	109	ディアハウンド	0	7	+ 7	-
105	114	ボルドー・マスティフ	10	6	- 4	60.0
109	114	アイリッシュ・ソフトコーテッド・ウィートン・テリア	8	6	- 2	75.0
127	114	イングリッシュ・ポインター	1	6	+ 5	600.0
106	117	オーストラリアン・ケルピー	9	5	- 4	55.6
119	117	ダンディ・ディモント・テリア	5	5	± 0	100.0
82	119	イングリッシュ・セター	34	4	- 30	11.8
106	119	マスティフ	9	4	- 5	44.4
112	119	ケリー・ブルー・テリア	7	4	- 3	57.1
112	119	ボーダー・テリア	7	4	- 3	57.1
-	119	ランカシャー・ヒーラー	0	4	+ 4	-
104	124	イタリアン・コルソ・ドッグ	11	3	- 8	27.3
124	124	ポリッシュ・ローランド・シープドッグ	3	3	± 0	100.0
-	124	パーソン・ラッセル・テリア	0	3	+ 3	-
-	124	紀州	0	3	+ 3	-
-	128	ジャーマン・ショートヘアード・ポインター	0	2	+ 2	-
-	128	ムーディー	0	2	+ 2	-
121	130	コトン・ド・デュレアル	4	1	- 3	25.0
127	130	ピレニアン・シープドッグ	1	1	± 0	100.0
-	130	アザワク	0	1	+ 1	-
-	130	グレーハウンド	0	1	+ 1	-
-	130	サールロース・ウルフドッグ	0	1	+ 1	-
-	130	スカイ・テリア	0	1	+ 1	-
-	130	ダッチ・シャペンドース	0	1	+ 1	-
-	130	フィールド・スパニエル	0	1	+ 1	-
-	130	フィニッシュ・ラポニアン・ドッグ	0	1	+ 1	-
-	130	ブルマスティフ	0	1	+ 1	-
97	-	ブリアード	16	0	- 16	0.0
100	-	アメリカン・アキタ	13	0	- 13	0.0
112	-	ファラオ・ハウンド	7	0	- 7	0.0
116	-	アイリッシュ・テリア	6	0	- 6	0.0
116	-	セントラル・アジア・シェパード・ドッグ	6	0	- 6	0.0
119	-	グレート・スイス・マウンテン・ドッグ	5	0	- 5	0.0
127	-	コモンドール	1	0	- 1	0.0
127	-	ショートヘアード・ハンガリアン・ビズラ	1	0	- 1	0.0
127	-	プレサ・カナリオ	1	0	- 1	0.0
127	-	ローデシアン・リッジバック	1	0	- 1	0.0

年 度		2023年度 (構成比)	2024年度 (構成比)	増減数	対比率
登 録 頭 数	大型犬	26,177 (8.5%)	26,382 (8.7%)	205	100.8%
	中型犬	2,340 (0.8%)	2,382 (0.8%)	42	101.8%
	小型犬	281,124 (90.7%)	273,812 (90.5%)	-7,312	97.4%
	合計	309,641	302,576	-7,065	97.7%
犬 種 数		133	139	6	104.5%

3. 展覧会に関する事項

(1) 各種展覧会の開催

2024 年度の展覧会開催数は、前年度と比較して 1 開催少ない、192 開催となりました。

また、会場となる東京ビッグサイトの日程調整の関係から本部主催の「サクラ・アニュアル・ショー」、及び「ロイヤルカナン・カップ」を同年度に 2 回開催となりました。

(2) 「JKC 創立 75 周年ロイヤルカナン・カップ 2024」、「JKC 創立 75 周年 J K C サクラ・アニュアル・ショー 2024」の開催

2024 年 4 月 5 日(金)に「JKC 創立 75 周年記念ロイヤルカナン・カップ 2024」(単犬種合同特別本部展)を 1,151 頭、4 月 6 日(土)・7 日(日)には「JKC 創立 75 周年記念 J K C サクラ・アニュアル・ショー 2024」を 1,889 頭の出陳をいただき、F C I 会長のタマス・ヤッケル氏を含め、国外審査員 9 名を招請して開催いたしました。

(3) 「ロイヤルカナン・カップ 2025」、「J K C サクラ・アニュアル・ショー 2025」の開催

2025 年 3 月 28 日(金)に「ロイヤルカナン・カップ 2025」を 1,145 頭、3 月 29 日(土)・30 日(日)には「J K C サクラ・アニュアル・ショー 2025」2,009 頭の出陳をいただき、国外審査員 6 名を招請し、別所 訓前理事長をベストインショージャッジとして開催いたしました。

(4) アジアジャーマンシェパードドッグショーの開催

「JKC 創立 75 周年記念 2024 アジアジャーマンシェパードドッグショー」を 11 月 24 日(日)・埼玉県比企郡吉見総合運動公園にて、デンマークよりルネ・ヨルゲンセン審査員を招請して 60 頭の出陳をいただき開催いたしました。

(5) 展覧会開催運営に関する指導

2023 年以降、夏季期間開催時の出陳者、及び出陳犬の健康上の安全を考慮し、7 月・8 月の開催は原則、北海道と東北ブロックに限定することとし、その時期以外の開催であっても、高温が予想される場合での開催には十分注意するように促し、状況によっては本部指導による開催見合わせを勧告することといたしました。

(6) 展覧会規程改正、及び展覧会運用の見直し

各ブロック協議会、及び各クラブ連合会に対して展覧会出陳定数に対する意見を伺い、一部の組織の出陳定数の見直しを行いました。

また、全犬種クラブ展の越境開催に関して、所属するクラブ連合会以外の地域への越境開催も認めるよう規程を緩和しました。

更に、バックトゥバックによる全犬種展の運用に関しても、出陳定数、審査員の起用人数、国外審査員の起用も見直されました。

F C I 展以外のチャンピオンシップショーにおける評価リボンの交付方法について、見直しを行いました。

(7) ロイヤルカナンアワードの実施推進

「ロイヤルカナンアワード」として、通算 30 回目となったアワード表彰については、133 犬種・235 頭(牡 120 犬種・120 頭／牝 115 犬種・115 頭)となりました。次の表は、過去 5 開催分の犬種と受賞頭数の推移を表したものとなります。

アワード受賞犬種・受賞頭数一覧

	牡		牝		合 計	
	犬 種 数	頭 数	犬 種 数	頭 数	犬 種 数	頭 数
2019 年	102 犬種	102 頭	97 犬種	99 頭	106 犬種	201 頭
2021 年	98 犬種	99 頭	91 犬種	93 頭	102 犬種	192 頭
2022 年	111 犬種	111 頭	104 犬種	104 頭	122 犬種	215 頭
2023 年	122 犬種	123 頭	116 犬種	118 頭	132 犬種	241 頭
2024 年	120 犬種	120 頭	115 犬種	115 頭	133 犬種	235 頭

※2020 年は、新型コロナウイルス感染症拡大により展覧会開催数が大幅に減少したため、2021 年分と合算し、表彰することとした。

(7)スチュワードの資格者の養成

展覧会システムの周知を図るため、2024 年 4 月、2025 年 3 月の「ロイヤルカナシ・カップ」、及び「J K C サクラ・アニュアル・ショー」についても、2023 年開催の本部展と同様に、全国ブロックスチュワード委員会に対して資格者の派遣を要請し、職務を行っていただきました。

(8)スチュワードの資格者管理

スチュワードの資格者数について、チーフスチュワードへの昇格者が 2 名、スチュワードへの新規登録者が 12 名いました。2024 年夏に行った資格更新では、更新対象者 119 名(チーフスチュワード資格者 89 名、スチュワード資格者 30 名)のうち、76 名(チーフスチュワード資格者 87 名、スチュワード資格者 27 名)が更新手続きを行いました。2025 年 3 月末現在、チーフスチュワード 146 名、スチュワード資格者 79 名、合計 225 名となりました。次の表は各ブロック別・資格別スチュワード登録者数の一覧です。

ブロック別・資格別スチュワード登録者数 (単位：人)

ブロック	チーフスチュワード	スチュワード	合 計
北 海 道	6	4	10
東 北	15	0	15
北 関 東	9	6	15
千 葉	8	2	10
埼 玉	8	7	15
東 京	11	7	18
神 奈 川	14	8	22
北陸甲信越	13	8	21
中 部	13	5	18
近 畿	17	7	24
大 阪	6	10	16
中 国	8	1	9
四 国	7	8	15
九 州	11	6	17
合 計	146 (146)	79 (72)	225 (218)

※()は前年度数

展覧会種類別開催数及び出陳頭数の推移

次の表は過去5年間の展覧会種類別開催数及び出陳頭数の推移であります。

展 覧 会 名 称		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
J K Cサクラ・アニュアル・ショー(本部展) (旧：F C I ジャパンインターナショナルドッグショー)	開 催 数	－	1回	1回	1回	2回
	出陳総頭数		1,156頭	1,424頭	1,746頭	3,898頭
特別展 (ロイヤルカナン・カップ(旧：単犬種合同特別本部展) ／単犬種合同特別展)	開 催 数	1回	1回	2回	2回	3回
	出陳総頭数	740頭	790頭	1,441頭	1,556頭	2,931頭
アジアジャーマンシェパード ドッグショー	開 催 数	－	－	1回	1回	1回
	出陳総頭数			59頭	64頭	60頭
F C I インターナショナル ドッグショー	開 催 数	3回	12回	14回	14回	13回
	出陳総頭数	2,446頭	9,287頭	9,940頭	10,706頭	9,611頭
	平 均 頭 数	815頭	774頭	710頭	765頭	793頭
クラブ連合会展	開 催 数	7回	29回	27回	26回	30回
	出陳総頭数	3,433頭	11,261頭	10,342頭	10,723頭	11,129頭
	平 均 頭 数	490頭	388頭	383頭	412頭	370頭
ジャーマンシェパードドッグクラブ ・トレーナーズクラブ連合会展	開 催 数	1回	1回	1回	2回	2回
	出陳総頭数	61頭	42頭	31頭	83頭	66頭
	平 均 頭 数	61頭	42頭	31頭	42頭	33頭
犬種部会展	開 催 数	2回	6回	8回	9回	7回
	出陳総頭数	179頭	592頭	564頭	748頭	553頭
	平 均 頭 数	90頭	99頭	71頭	83頭	77頭
全犬種クラブ展	開 催 数	34回	89回	90回	98回	108回
	出陳総頭数	10,706頭	26,196頭	23,134頭	24,718頭	23,727頭
	平 均 頭 数	315頭	294頭	257頭	252頭	220頭
犬種群クラブ展	開 催 数	4回	25回	24回	29回	15回
	出陳総頭数	523頭	3,035頭	2,090頭	2,663頭	1,182頭
	平 均 頭 数	131頭	121頭	87頭	92頭	79頭
単犬種クラブ展	開 催 数	4回	8回	20回	11回	11回
	出陳総頭数	218頭	479頭	946頭	583頭	609頭
	平 均 頭 数	55頭	60頭	47頭	53頭	55頭
合 計	開 催 数	56回	172回	188回	193回	192回
	出陳総頭数	18,306頭	52,838頭	49,971頭	53,590頭	53,766頭

4. 技術部門・競技会に関する事項

(1) 審査員、訓練士、トリマー、ハンドラー、アニマル衛生士資格者の管理

資格更新者の更新率の向上を図り、また各公認資格及び競技会審査員資格の新規・昇格試験を次の通り実施しました。

①資格取得試験

審査員／単犬種 2024年8月21日(水)：東京都で実施。

(受験者24名・受験犬種数97犬種・合格犬種数63犬種)

2025年2月26日(水)：大阪府で実施。

(受験者22名・受験犬種数80犬種・合格犬種数60犬種)

／犬種群 2024年8月21日(水)：東京都で実施。

(筆記試験)(受験者15名・受験犬種群数21犬種群・合格犬種群数10犬種群)

2025年2月26日(水)：大阪府で実施。

(筆記試験)(受験者16名・受験犬種群数28犬種群・合格犬種群数13犬種群)

(実技試験)クラブ展・クラブ連合会展会場で実施。

(受験者10名・受験犬種群数11犬種群・合格犬種群数11犬種群)

／全犬種 2024年8月21日(水)：東京都で実施。

(受験者7名・合格者数4名)

訓練士 9ブロック／5養成機関で実施。

(ブロック：47名合格、養成機関：147名合格)

トリマー 13ブロック／8指定機関・10研修機関・20協力機関で実施。(ブロック：140名合格、指定機関：775名合格、研修機関：409名合格、協力機関：533名合格)

ハンドラー 14ブロック／8指定機関・8研修機関で実施。(ブロック：127名合格、指定機関：347名合格、研修機関：271名合格)

アニマル衛生士 4養成機関で実施(受験者55名・合格者41名)

トリマー教士 2024年11月30日(土)：大阪府で実施。(受験者7名・合格者0名)

ハンドラー教士 2024年11月14日(木)：大阪府で実施。(受験者2名・合格者1名)

②資格更新件数：10,096件(対象件数：11,341件) 更新率：89.0%

(審査員：95件、訓練士：1,378件、トリマー：6,074件、ハンドラー：2,381件、アニマル衛生士：168件)

③②による資格更新件数10,096件のうち、3,289件が口座振替による更新。

(審査員：16件、訓練士：505件、トリマー：1,885件、ハンドラー：794件、アニマル衛生士：89件)

(2) 審査員・訓練士・トリマー・ハンドラー資格者の教育研修の強化

①審査員義務研修会を、各ブロックで講師及びテーマを設定し、13会場において延べ317名の受講により実施しました。

②訓練士義務研修会を、「使役犬とアジリティーに必要な基礎栄養学について」をテーマとし、14会場において延べ1,127名の受講により実施しました。

③トリマー義務研修会を、各ブロックで講師及びテーマを設定し、14会場において延べ3,086名の受講により実施しました。

④ハンドラー義務研修会を、各ブロックで講師及びテーマを設定し、14会場において、延べ736名の受講により実施しました。

⑤自主研修会の開催指導を行い、次の通り7会場で自主研修会が実施されました。

ブロックトリマー委員会・2開催／ブロックハンドラー委員会・4開催／クラブ・1開催

(3) 各種審査員研修会及び試験の実施

①審査実務のための特別研修会を、「審査の手法」をテーマに、東京都において1名の受講により実

施しました。

②新規訓練競技会審査員研修会を、「訓練競技会審査の原則と技術」をテーマに、埼玉県において、4名の受講により実施しました。

(4) トリマー養成機関の教育向上の指導強化

①各養成機関に教育体制及びカリキュラムの指導を実施しました。

②協力機関に資格取得試験に対する指導を実施しました。

(5) 訓練競技会の開催

第106回2024春季訓練競技大会を、2024年4月27日(土)・28日(日)の両日、埼玉県・比企郡吉見総合運動公園において出陳頭数685頭で、また第107回2024秋季訓練競技大会を、2024年11月2日(土)・3日(日)の両日、埼玉県・比企郡吉見総合運動公園において出陳頭数544頭で開催しました。

F C I 東日本インターナショナルトライアルを、2025年3月16日(日)北関東ブロック訓練士協議会の担当により231頭の出陳頭数で開催しました。

F C I 西日本インターナショナルトライアルを、2024年10月6日(日)北陸甲信越ブロック訓練士協議会の担当により131頭の出陳頭数で開催しました。

この他、ブロック訓練競技会を9回、S T連合会訓練競技会を2回、クラブ訓練競技会を15回開催しました。

訓練技術の向上を図るためチャンピオン制度を推進し、トレーニングチャンピオン111頭、グランドトレーニングチャンピオン43頭、オビディエンスチャンピオン7頭、グランドオビディエンスチャンピオン4頭の登録がありました。

オビディエンス試験・競技の参加人員底辺拡大のため、全国の訓練競技会でクラス採用の推進を図り、東西日本ブロック訓練士協議会主催で2回、ブロック訓練士協議会主催で6回、S T連合会主催で2回、クラブ主催で3回採用しました。

訓練競技会に併催して開催しているフライボール競技会については、第106回2024春季訓練競技大会に併催した第38回2024フライボール競技大会を、出陳頭数アトラクション個人競技24頭・アトラクションダブルス競技3ペア・個人競技23頭・チーム競技9チーム・ダブルス競技9ペアで、また、第107回2024秋季訓練競技大会に併催した第39回2024フライボール競技大会を、出陳頭数アトラクション個人競技46頭・アトラクションダブルス競技2ペア・個人競技23頭・チーム競技8チーム・ダブルス競技8ペアで開催しました。

この他、東日本・西日本ブロックフライボール競技大会を2回、ブロックフライボール競技会を7回、S T連合会フライボール競技会を2回開催しました。

競技会参加層の拡大を図るため、チャンピオン制度を推進し、フライボールチャンピオン7頭の登録がありました。

(6) I G P 競技会の開催

第29回2024F C I - I G P 競技大会を、2024年6月22日(土)・23日(日)長野県・霧ヶ峰において出陳頭数37頭で開催しました。

第29回2024F C I - I G P 競技大会の結果に基づき、F C I - I G P ワールドチャンピオンシップ2024(2024年9月23日(月)～29日(日))：クロアチア・ヴィンコヴチに5ペアを派遣しました。

成績は全ペア追及作業が70点未満のため、順位がつきませんでした。

(7) F C I オビディエンスワールドチャンピオンシップ派遣選考会の開催

F C I オビディエンスワールドチャンピオンシップ2024派遣選考会を、2024年4月27日(土)埼玉県において出陳頭数6頭で開催しました。派遣選考会の結果に基づき、F C I オビディエンスワールドチャンピオンシップ2024(2024年7月25日(木)～28日(日))：ラトビア・リガに3ペアを派遣しました。成績は個人最高70位でした。

また、F C I オビディエンスワールドチャンピオンシップ2025派遣選考会を、2025年3月5日(水)岐阜県において出陳頭数9頭で開催しました。

訓練競技会・フライボール競技会種類別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
訓練競技大会(本部主催)※1	1	2	2	2	2
F C I インターナショナルトライアル※2	0	3	2	2	2
ブロック訓練競技会	3	10	9	12	9
ジャーマンシェパードドッグクラブ・ トレーナーズクラブ連合会訓練競技会	1	1	1	2	2
クラブ訓練競技会	9	10	13	11	15
フライボール競技大会(本部主催)	1	2	2	2	2
フライボール競技大会 (東日本・西日本ブロック訓練士協議会主催)	0	3	2	2	2
ブロックフライボール競技会	2	8	5	6	7
ジャーマンシェパードドッグクラブ・ トレーナーズクラブ連合会フライボール競技会	1	1	1	1	2
クラブフライボール競技会	0	0	1	0	0
F C I - I G P 競技大会(本部主催)※3	0	1	1	1	1
合 計	18	41	39	41	44

※1…2020年春季訓練競技大会は開催中止。

※2…東日本及び西日本F C I インターナショナルトライアル。2020年度のF C I 西日本インターナショナルトライアルは開催中止。

※3…2020 F C I - I G P 競技大会は開催中止。

(8) アジリティー競技会の開催

第37回2024 F C I インターナショナルアジリティー競技大会を、2024年6月1日(土)・2日(日)に埼玉県・比企郡吉見総合運動公園において、個人競技への出陳661頭・チーム競技への出陳75チーム225頭で開催しました。

J K Cアジリティー・ジャパンカップ2024兼F C I アジリティーワールドチャンピオンシップ2024派遣選考会を、2024年6月15日(土)・16日(日)に京都府・ミズノスポーツプラザ京都伏見において出陳頭数77頭で開催しました。

J K Cアジリティー・ジャパンカップ2024兼F C I アジリティーワールドチャンピオンシップ2024派遣選考会の結果に基づき、F C I アジリティーワールドチャンピオンシップ2024(2024年10月1日(火)～6日(日)：ベルギー・オフラグベーク)にスモール・ミディアム・ラーズの各カテゴリー4ペア合計16ペアを派遣しました。成績は、個人総合の最高がミディアムクラス8位、チーム総合の最高がスモールクラス5位でした。

F C I 東日本インターナショナルアジリティー競技大会を、2025年3月15日(土)に北関東ブロック訓練士協議会の担当により460頭の出陳頭数で開催しました。

ＦＣＩ西日本インターナショナルアジリティー競技大会を、2024年10月5日(土)に北陸甲信越ブロック訓練士協議会の担当により450頭の出陳頭数で開催しました。

この他、ブロックアジリティー競技会を12回、ＳＴ連合会アジリティー競技会を2回、クラブアジリティー競技会を35回開催しました。

競技会の充実により、アジリティー競技関連のチャンピオン登録は、アジリティーチャンピオン115頭、グランドアジリティーチャンピオン29頭、ＦＣＩインターナショナルアジリティーチャンピオン1頭の登録がありました。

アジリティー競技会種類別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ＦＣＩアジリティー競技大会(本部主催)	0	0	1	1	1
アジリティー・ジャパンカップ／アジリティーＪＫＣカップ／アジリティー大阪カップ	1	1	2	2	2
ＦＣＩ東・西日本アジリティー競技大会	0	3	2	2	2
ブロックアジリティー競技会	4	13	11	14	12
ジャーマンシェパードドッグクラブ・トレーナーズクラブ連合会アジリティー競技会	1	1	1	2	2
クラブアジリティー競技会	14	23	26	28	35
合 計	20	41	43	49	54

(9) ドッグダンス競技会の開催

第2回2024ドッグダンス競技大会を、2024年10月12日(土)・13日(日)に山梨県・ドッグリゾートW o o fにおいて、出陳頭数86頭で開催しました。

第2回2024ドッグダンス競技大会の結果に基づき、ＦＣＩドッグダンスワールドチャンピオンシップ2024(2024年5月16日(木)～19日(日)：ハンガリー・ブタベスト)に2ペアを派遣しました。成績は個人最高が16位(フリースタイル)でした。

(10) トリミング競技会の開催

第44回トリミング競技大会予選を兼ねたブロック競技会、並びに養成機関競技会を14ブロック及び16養成機関でそれぞれ開催しました。

ＦＣＩグルーミングワールドチャンピオンシップ2024(2024年12月5日(木)：韓国・水原)に5ペアを派遣しました。成績は個人1席(カテゴリー1.)・団体は席次外でした。

トリミング競技会別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
トリミング競技大会(本部主催)	1	1	2	0	2
ブロックトリミング競技会	14	14	14	14	14
養成機関トリミング競技会	20	15	16	18	16
合 計	35	30	32	32	32

(11) ハンドリング競技会の開催

第41回ハンドリングコンペティション予選を兼ねた各ブロック競技会を14ブロックで開催しました。

ハンドリング競技会別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ハンドリング競技大会(本部主催)	0	1	2	0	2
ブロックハンドリング競技会	11	13	14	14	14
合 計	11	14	16	14	16

(12) ジュニアハンドラーの育成及び教育研修の強化

第32回ジュニアハンドリングコンペティション予選を兼ねたブロックジュニアハンドリングコンペティションを13回開催しました。

サマーセミナーを、2024年7月28日(日)～7月30日(火)に山梨県において、20名の参加により実施しました。

イギリスのクラフトショーに併催された、ジュニアハンドラー世界大会2025(バーミンガム・2025年3月7日(金))に代表者を派遣しました。

ジュニアハンドラーガイドを各FCIインターナショナルドッグショー会場で配付し、登録者の増加推進を図り、ジュニアハンドラー活動初参加者へジュニアハンドラーTシャツを配布し、参加意識の向上を図りました。また、ジュニアハンドラー教育に関わる指導者に対して、国際畜犬連盟が定めるFCIユースマニュアルを基とした審査手法及び指導方法の再確認をおこない、ジュニアハンドラーの育成強化を図りました。

ジュニアハンドラー登録者は、新規登録者及び登録更新者あわせて135名(前年度105名)となっています。

(13) オーナーハンドラー(初心者)のハンドリング技術の普及

一般クラブ会員向けにハンドリング技術の普及を図るため、クラブ連合会展会場において実施しているオーナーハンドラー講習会は9会場で実施され延べ200名の受講、また、オーナーハンドリングコンペティションは20会場で実施され延べ380名の参加がありました。

(14) 公認訓練所の充実

訓練実績を確認するため、訓練所所員の名簿提出及び登録を行い、実績不足の訓練所に対しては指導を行いました。

公認訓練所の認定にあたっては、設備・規模・衛生状態等についての実地調査を厳正に行い、新規訓練所として第1種訓練所に1訓練所を認定しました。また、第1種訓練所3訓練所を取消し、2024年度末公認訓練所数は、第1種訓練所が82訓練所、第2種訓練所が13訓練所となり、合計95訓練所となりました。

審査員資格登録者一覧表

2025年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	単犬種	犬種群	全犬種	小計	特別保持			保 持			合計
					単	群	全	単	群	全	
北海道	7 (0)	5 (0)	9 (4)	21	1	0	0	0	0	0	22
東 北	4 (0)	10 (1)	6 (2)	20	2	0	2	0	1	0	25
北関東	19 (0)	10 (0)	10 (6)	39	1	2	2	0	1	0	45
千 葉	20 (1)	10 (1)	6 (1)	36	5	0	0	0	0	0	41
埼 玉	11 (0)	11 (0)	10 (3)	32	2	0	0	1	0	0	35
東 京	20 (1)	16 (4)	21 (11)	57	2	2	4	2	0	0	67
神奈川	23 (0)	6 (3)	15 (3)	44	2	0	4	0	0	0	50
北 陸 甲信越	5 (0)	10 (1)	7 (2)	22	2	1	2	0	0	1	28
中 部	19 (0)	10 (2)	17 (7)	46	3	0	1	2	0	0	52
近 畿	4 (0)	15 (2)	5 (3)	24	5	1	3	0	0	1	34
大 阪	10 (0)	9 (3)	12 (7)	31	5	1	1	0	2	0	40
中 国 四 国	19 (0)	4 (0)	11 (8)	34	0	2	0	0	1	0	37
九 州	22 (0)	6 (0)	19 (8)	47	0	0	1	0	0	0	48
合 計	183 (2) <194>	122 (17) <130>	148 (65) <146>	453 <470>	59 <63>			12 <12>			524 <545>

注1 単→単犬種・群→犬種群・全→全犬種

2 < >は前年度数

3 ()は2024年度に審査を行った審査員実数84名、延べ人数431名

年度別審査員資格者推移表

(単位：人)

年 度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
資格者数	541	580	560	545	524

訓練士資格登録者一覧表

2025年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	訓練準士補		訓練士補		訓練練士		訓練教士		訓練範士		師範	計	区分合計	
	正常	保持	正常	保持	正常	保持	正常	保持	正常	保持			正常	保持
北海道	0	0	0	2	38	12	8	1	4	0	0	65	50	15
東 北	4	6	6	5	51	24	14	1	2	1	5	119	82	37
北関東	2	0	7	69	70	13	11	3	4	0	4	183	98	85
千 葉	0	0	79	279	53	24	8	1	4	0	2	450	146	304
埼 玉	4	0	34	279	102	40	15	2	11	2	7	496	173	323
東 京	2	0	38	249	86	35	21	2	8	1	4	446	159	287
神奈川	1	0	44	69	79	29	18	3	16	3	6	268	164	104
北 陸 甲信越	0	0	1	22	52	29	13	1	4	0	4	126	74	52
中 部	0	1	20	86	86	25	22	3	12	0	5	260	145	115
近 畿	5	0	4	38	101	46	23	3	20	1	3	244	156	88
大 阪	1	0	10	51	62	37	14	2	8	1	0	186	95	91
中 国	2	1	0	12	43	35	10	2	6	1	7	119	68	51
四 国	0	0	0	23	27	6	8	3	5	1	1	74	41	33
九 州	3	0	23	61	83	17	20	2	16	1	2	228	147	81
計	24	8	266	1,245	933	372	205	29	120	12	50	3,264	1,598	1,666
合 計	32 <31>		1,511 <1,483>		1,305 <1,292>		234 <241>		132 <153>		50 <31>	3,264 <3,231>		

注1 < >は前年度数

2 新規及び昇格登録者数は194名

年度別訓練士資格者推移表

(単位：人)

年 度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
資格者数	3,194	3,216	3,262	3,231	3,264

トリマー資格登録者一覧表

2025年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	C級		B級		A級		教士	師範	計	区分合計	
	正常	保持	正常	保持	正常	保持				正常	保持
北海道	28	97	31	398	23	84	9	0	670	91	579
東 北	111	303	63	178	23	23	3	0	704	200	504
北関東	114	633	82	374	49	45	10	1	1,308	256	1,052
千 葉	174	352	80	689	55	91	4	1	1,446	314	1,132
埼 玉	62	233	99	797	64	103	3	3	1,364	231	1,133
東 京	64	238	89	855	83	173	9	6	1,517	251	1,266
神奈川	54	138	52	299	42	52	5	1	643	154	489
北 陸 甲信越	95	276	67	168	34	22	3	0	665	199	466
中 部	60	169	73	378	32	65	4	1	782	170	612
近 畿	154	294	105	390	50	84	2	0	1,079	311	768
大 阪	41	161	68	483	75	95	4	2	929	190	739
中 国	352	504	99	201	61	41	5	1	1,264	518	746
四 国	127	236	50	145	31	36	4	0	629	212	417
九 州	313	487	110	618	74	153	13	3	1,771	513	1,258
計	1,749	4,121	1,068	5,973	696	1,067	78	19	14,771	3,610	11,161
トリマー 養成機関	909		659		109		6	1	1,684		
合 計	6,779 <6,591>		7,700 <7,651>		1,872 <1,875>		84 <97>	20 <8>	16,455 <16,222>		

注1 < >は前年度数

2 新規及び昇格登録者数は1,857名

年度別トリマー資格者推移表

(単位：人)

年 度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
資格者数	15,619	15,827	16,042	16,222	16,455

ハンドラー資格登録者一覧表

2025年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	C級		B級		A級		特別 A級	教士	師範	計	区分合計	
	正常	保持	正常	保持	正常	保持					正常	保持
北海道	26	224	10	12	7	3	0	3	1	286	47	239
東 北	10	210	12	12	4	5	0	3	1	257	30	227
北関東	41	368	10	9	10	1	0	5	0	444	66	378
千 葉	62	479	15	14	14	2	0	6	1	593	98	495
埼 玉	41	548	9	12	4	5	0	7	0	626	61	565
東 京	56	612	6	14	9	7	1	2	1	708	75	633
神奈川	46	207	22	10	17	4	0	5	2	313	92	221
北 陸 甲信越	16	94	7	6	12	3	0	1	0	139	36	103
中 部	34	259	18	13	13	5	0	5	1	348	71	277
近 畿	82	304	10	10	6	3	0	4	0	419	102	317
大 阪	106	341	8	4	12	6	0	4	0	484	133	351
中 国	54	180	11	17	6	3	0	4	0	275	75	200
四 国	48	188	4	4	5	0	0	2	0	251	59	192
九 州	35	382	16	20	8	9	1	10	1	482	71	411
計	660	4,396	158	157	127	56	2	61	8	5,625	1,016	4,609
トリマー 養成機関	1,183		6		0		1	0	0	1,190		
合 計	6,239 <6,123>		321 <317>		183 <184>		4 <3>	61 <67>	8 <2>	6,815 <6,696>		

注1 < >は前年度数

2 新規及び昇格登録者数は746名

年度別ハンドラー資格者推移表

(単位：人)

年 度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
資格者数	6,501	6,599	6,575	6,696	6,815

5. 愛犬の飼育環境整備に関する事項

(1) 動物愛護精神の普及と高揚

核家族化や高齢化が進み、犬を飼育することの重要性が高く評価されている現代社会において、犬の絵や写真、俳句を通じて犬への愛情や理解を深めていただくことを目的に実施している各種コンクール(犬の絵コンクール、愛犬とのふれあい写真コンテスト等)を、前年度に引き続き開催した他、動物愛護週間における“動物愛護ふれあいフェスティバル”(共催・2024年9月23日(月))及び「2023動物感謝デーin JAPAN“The World Veterinary Day”」(共催・2024年9月21日)への参加・協力を行い、動物愛護精神の普及と高揚に努めました。

また、会報にて長寿犬(満15歳以上)の誌上表彰(305頭)を行いました。

(2) 災害救援活動の推進

災害対応基金制度による災害対応基金の総額は3,334,460円です。

2024年1月に発生した、能登半島地震で被災したクラブ会員に災害対応金からお見舞金と送料併せて697,190円を支出しました。また、令和6年能登半島地震の募金総額は2,004,337円となっております。

(3) 愛犬飼育管理士資格制度の推進

「動物の愛護及び管理に関する法律」の理念に基づき、地域において動物愛護思想の普及啓蒙、畜犬に係る公衆衛生の向上及び畜犬の適正な指導奨励に関する事業の地域における指導的役割を担う人材を育成するため、「J K C 愛犬飼育管理士」資格取得のための講習会・試験を8カ所の会場で実施し、1,512名の登録がありました。また、この他、公認トリマー養成機関生徒532名の資格登録がありました。

愛犬飼育管理士講習会・試験の開催と登録者数の推移

年 度	開催数と開催ブロック名		登録者
2020年度	9開催	大阪・神奈川・東北・近畿・中部・埼玉・九州・中国・東京	1,090名
2021年度	11開催	北海道・東北・大阪・北陸甲信越・四国・近畿・埼玉・中部・千葉・東京・九州	2,875名
2022年度	12開催	九州3回・大阪・東北・中国・近畿・北海道・中部・埼玉・東京・神奈川	3,393名
2023年度	6開催	大阪・埼玉・近畿・東京・中部・九州	3,594名
2024年度	8開催	大阪・九州2回・東京・中部・東北・埼玉・近畿	1,512名
合 計	第1回(2007年)からの延べ開催数と登録者数 …… 168開催・26,958名		

(4) 各種コンクールの実施

「第48回夏休み犬の絵コンクール」、「第33回愛犬とのふれあい写真コンテスト」、「令和6年愛犬とのふれあいの俳句」へは、いずれも多くのお応募がありました。

また、各種コンクールの優秀作品を、会報及びホームページに掲載しました。なお、前年に引き続き「2024年犬の絵コンクール優秀作品集」、「2024第33回愛犬とのふれあい写真コンテスト」カラーパンフレットを刊行し、世界のケネルクラブ及び協力者、関係者に配付し、好評を得ました。

夏休み犬の絵コンクール／愛犬とのふれあい写真コンテスト
／「愛犬とのふれあいの俳句」俳壇応募数一覧

年 度	夏休み犬の絵コンクール							愛犬との ふれあい写真 コンテスト (点)	愛犬との ふれあいの 俳句 (句)
	応募数 (点)	団体数 (団体)	団体内訳						
			①	②	③	④	⑤		
2020年度	6,775	265	224	25	3	4	9	473	1,355
2021年度	10,018	292	253	30	0	1	8	654	2,344
2022年度	11,410	311	258	38	0	6	9	515	1,310
2023年度	10,983	291	245	31	1	3	11	874	1,292
2024年度	10,968	271	219	31	2	7	12	725	1,125

注：団体内訳の丸数字は順に①小学校 ②絵画教室 ③幼稚園 ④中学校 ⑤その他です。

(5) 社会福祉への貢献

全国の6クラブ(延べ7回)が実施した動物愛護及び社会福祉活動に対し一定額の助成を実施しました。

6. 災害対策に関する事項

(1) 災害救助犬の育成強化

災害救助犬の全国的な配備を目指し、ブロック訓練士協議会主催により全国6ブロックで災害救助犬認定試験を実施し、新たに27頭を認定しました。この結果、2024年度末現在の認定犬頭数は、死亡等による認定返上を差し引き、188頭となり、その内10歳以上の犬等の特別災害救助犬の頭数は54頭となりました。指導手については227名となりました。

(2) 災害救助犬育成訓練所の拡充指導

公認災害救助犬育成訓練所22訓練所の他に、災害救助犬を所有する訓練所が7訓練所となりました。

(3) 災害救助犬の出動体制の整備

①防災週間等に全国27カ所で行われた防災訓練等に災害救助犬延べ62頭、指導手延べ74名が参加しました。

②新たに登録された救助犬指導手13名に救助服の貸与を行いました。

③現在、出動に関する協定締結自治体は23自治体(新規自治体は新潟県)となっています。

④災害が発生した時に出動する災害救助犬出動部隊の創設準備を行いました。

(4) 災害救助犬育成募金の活用

①2024年度の災害救助犬育成募金の総額は1,036,194円となりました。

②2024年度の災害救助犬支援企業は、アニコム損害保険株式会社の1社(協賛金総額550,000円)となりました。

③2024年度の災害救助犬育成寄付金付き自動販売機の設置台数は115台となりました。(寄付金総額678,722円)

④2024年度の災害対策募金・協賛金総額は1,586,194円となり、災害救助犬の事業支出(総額13,919,715円)の一部として災害救助犬育成助成費、指導手傷害保険、東西訓練施設維持管理費等に活用しております。

次の表は災害対策費の項目別支出一覧です。

2024年度災害対策費支出一覧

(単位：円)

項 目	金 額
災害救助犬育成助成費(71頭)	1,278,000
防災訓練・イベント等(27カ所、延べ62頭・74名)	735,000
指導手傷害保険(228名)	520,760
東西訓練施設維持管理費	2,946,297
災害救助犬認定試験(6回)	3,713,789
災害救助犬競技大会	3,989,001
指導手制服貸与(13名)	736,868
合 計	13,919,715

(5) 災害救助犬訓練施設の整備

- ①東日本災害救助犬訓練施設の整備及び管理を行いました。
- ②西日本災害救助犬訓練施設の売却を検討しています。
- ③西日本彦根災害救助犬訓練施設へ移転し、訓練施設の整備及び管理を行いました。

(6) 災害救助犬指導手の連携強化

災害救助犬等、並びに指導手の技術向上及び指導手の連携強化を図るため、東日本災害救助犬訓練施設においては災害救助犬等延べ710頭、指導手延べ540名の合同搜索訓練を、また、西日本災害救助犬訓練施設においては災害救助犬等延べ253頭、指導手延べ189名による合同搜索訓練を、義務練習及び自主練習として実施しました。

(7) 特別災害救助犬の認定

年齢が10歳以上となった認定犬及び能力が低下した認定犬19頭を新たに特別災害救助犬として認定しました。

(8) F C I 災害救助犬委員会との連携強化及び技術交流

2025年2月15日(土)トルコ・イスタンブールにてF C I 災害救助犬委員会会議が開催され、災害救助犬に関する意見の交換と技術の交流を図りました。

(9) 災害救助犬競技大会の開催

- ①第26回2024災害救助犬競技大会を2024年10月1日(火)・2日(水)の2日間、東日本災害救助犬訓練施設・(独)家畜改良センター内野球グラウンドにおいて、出陳頭数33頭で開催しました。

7. 学術部門に関する事項

(1) 各種研修会・試験の充実

審査員有資格者及び新規受験者の知識向上のためのテキストを作成しました。各種資格試験(審査員・トリマー・ハンドラー)の試験問題を作成しました。また、ジュニアハンドラー指导向け資料の作成を行いました。

(2) 学術資料の拡充

犬種標準の改正及び、新登録犬種の犬種標準の作成を行いました。また、各犬種に関する資料の収集及び整備を行いました。

(3) 審査員技術の向上と育成

審査員の技術向上のため、審査実務のための研修会を2024年10月8日(火)に実施した他、ブロック審査員協議会主催による義務・自主研修会用の資料の作成をしました。

審査員育成のため、2024年8月21日(水)に東京都、及び2025年2月26日(水)に大阪府で審査員試験を実施し、2024年8月21日(水)に東京都で全犬種審査員試験を実施しました。

また、各地の展覧会にて犬種群審査員の実技試験を実施しています。

(4) 各種教本の修正及び販売

犬種標準の改正、並びに新登録犬種の増加に伴い、全犬種標準書の改正を行いました。プードルの新カラーバリエーション関連、アメリカン・コッカー・スパニエルの新技法を周知しました。

全犬種標準書、最新ドッググルーミングマニュアル等の教本販売を行いました。

8. 国際的連携に関する事項

(1) 国際畜犬連盟(F C I)との連携強化

F C I加盟国として、2024年9月にクロアチアと2025年3月にスペインで開催されたF C Iユーティリティードッグ委員会、2024年10月にベルギーと2025年2月にスウェーデンで開催されたF C Iアジアリティー委員会、2025年2月にトルコで開催されたF C I災害救助犬委員会、2025年2月にマレーシアで開催されたF C Iグルーミング委員会、2024年7月にラトビアで開催されたF C Iオビディエンス委員会、2024年6月に開催されたF C Iドッグダンス委員会のオンライン会議にそれぞれ出席しました。

なお、2024年6月に開催されたF C Iオンライン総会、2024年6月にスロバキアで開催されたF C I災害救助犬委員会、2024年4月と2025年1月に開催されたF C Iオビディエンス委員会のオンライン会議は欠席しました。

また、2024年12月に韓国で開催されたF C Iアジア・アフリカ・オセアニア・セクション執行委員会にも出席しました。

2024年度末のF C I加盟国数は89カ国（うち正会員78カ国、準会員11カ国）、F C I契約パートナー国数は11カ国となっています。

(2) アジア・グルーミング・フェデレーション(A G F)の連携強化

A G F会長国として、2024年4月にA G F総会を日本で開催し、今後のA G Fの活動に関する事項、次回総会開催地に関する事項等が審議されました。

また、A G F各加盟国におけるグルーミング競技会活動の強化を図るため、加盟3カ国で開催されたグルーミング競技会・試験への本会審査員延べ8名の国外審査を許可しました。

2024年度末のA G F加盟国数は4カ国となっています。

(3) 世界秋田クラブ畜犬連盟(W U A C)の連携強化

2024年10月にフランスでW U A C執行委員会及び総会が開催され、ベルギー及びマケドニアからの加盟申請に関する事項、W U A C役員の改選に関する事項、ヨーロッパ地域日本犬種特別展に関する事項等が審議されました。

2024年度末のW U A C加盟国数は12カ国となっています。

(4) 国外ケネルクラブとの技術交流の強化促進

諸外国との技術交流の強化を図るため、国外ケネルクラブとの連携を密にするとともに、国内展覧会・各種競技会への国外審査員の招請及び国外展覧会・各種競技会への本会審査員の派遣を行いました。その内容は、102の国内展覧会・各種競技会に世界39カ国から延べ287名の審査員が招請されました。

また、国外については、世界32カ国へ延べ138名の国外審査を許可しました。

なお、A G F加盟国への派遣については(2)に記載しました。

(5) 日本原産犬種の国際的振興

ヨーロッパ諸国における日本犬種振興策の一環として、2024年10月にフランス・ムーランにて本会主催による第15回ヨーロッパ地域日本犬種特別展を開催しました。秋田、柴、日本スピッツ、狆、四国、甲斐、土佐、北海道の合計326頭の出陳を得て、ヨーロッパ地域における日本犬種への関心が高いことがうかがえました。

また、日本原産犬種のスタンダード及び特徴を充分理解してもらうため、日本原産犬種の各種資料の収集に努めました。

(6) 国際的な情報収集と文献交換

世界各国のケネルクラブから会報誌が定期的に送付されてきており、本会からは会報「J K C ガゼット」、「犬の絵コンクール優秀作品集」等を送付しています。その他、犬界の雑誌の収集等、世界の状況把握に努めました。

9. 広報部門に関する事項

(1) 会報「J K C ガゼット」の内容充実

犬のお手入れのための「最新・愛犬のためのスキンケア」や人と犬の歴史「縄文時代の人と犬」、「梅雨・夏シーズンを上手に乗り切る方法」、「J K C 愛犬検定2024」、災害対策のための「いま見直したい、我が家の完全備蓄計画」、しつけのための「かむ効用と、しつけのポイント」や、「愛犬の「自立心」を育む」、ドッグショーの楽しみ方を紹介した「犬好きはみんな、ドッグショーへLet's GO!!」などの最新情報を特集で掲載しました。

また、本部主催の展覧会や災害救助犬競技大会、トリミング競技大会、訓練競技大会等の報告記事や各種展覧会・競技会の日程、J K C 公示、会員から送られた愛犬の写真とエピソードなど、会員に必要な情報の掲載をいたしました。

(2) ホームページの内容充実

ホームページに掲載する情報や、各種展覧会・競技会の日程、最新イベントに関する情報等の随時更新をしていきました。そして、公認資格者向けのトリミング動画配信及び新規動画作成、展覧会システムの改正に関する動画配信を継続しました。

さらに、J K C マスコットキャラクター「ジャック」を利用した「ジャックブログ」をホームページ上で随時更新し、会員のみならず一般愛犬家も楽しめるような、ホームページ作りに努めました。

また、ホームページの利便性を向上させるためにリニューアルに努めました。

その他、会員特典として、通販サイトと連動して「クーポン」を取得できるようにしました。

(3) 展覧会・競技会事業等のPR活動

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展覧会・競技会などへ参加する際の注意点について、ホームページや会報等で、呼びかけをいたしました。

また、本部が主催する展覧会や訓練競技大会、アジリティー競技大会、フライボール競技大会、トリミング競技大会等の見どころを会報で紹介しPRに努めました。

さらに、J K C マスコットキャラクター「ジャック」のティッシュやハンドタオル、マスキングテープ等のグッズを、本部主催の展覧会、訓練競技大会、アジリティー競技大会会場等で配布・販売した他、キャラクターパネルによる写真撮影などによるPRに努めました。

10. 図書印刷物の刊行に関する事項

(1) 定款規程集の発行

定款規程細則全書2024年度版を5月に刊行しました。

(2) 犬の絵コンクール優秀作品集の発行

2024年犬の絵コンクール優秀作品集を2024年12月に刊行しました。

11. 電算システムの開発に関する事項

(1) 業務の変化等を踏まえた新システムへの変更

中長期的視点に立った業務の変化等を踏まえ、課を跨いだプロジェクトチームを編成し新たなシステム構築の検討と設計を行いました。

12. 登録申請受付システムの開発に関する事項

(1) インターネットを利用した申請受付システムの構築

本会ホームページからオンライン申請による愛犬飼育管理士講習会の受講・試験申込みシステムを開始し、必要に応じシステムの修正を加えました。また、ウェブ登録申請システムの新規開発に向けて準備を進めました。